

## 本文

Q-1. (2) fiesta と feria の違いは何ですか？

A-1. 意味が似ているので、同じ行事を指すのにどちらも使われることがあります。fiesta は一般に「祭り」の意味ですが、feria は特定の日程で行われる年中行事の祭りです。

fiesta は「パーティー」の意味で、feria は「見本市」の意味でよく使われます。

Q-2. (5)「すばらしい」を意味する形容詞が多々出てきましたが、違いを教えてください。表現が豊かになりそうです。

A-2. 感情的な言葉なので、理屈で違いを説明するよりも用例で感じ取るほうがよいと思います。以下は私の資料の一部です。参考にしてください (<Col>はコロンビアで採集)。

素晴らしい <adj>magnífico, <Col>estupendo, fantástico, fabuloso, formidable, espléndido, prodigioso, admirable, extraordinario.

<みごとな> <adj>ideal.

<すぐれた> <adj>excelente.

<驚くべき> <adj>maravilloso.

<素敵な> <adj>precioso.

すばらしい考え <f>idea magnífica [espléndida, formidable, estupenda, cojonuda, <Vul>de puta madre].

彼は実にすばらしい芸術家だ Es un artista verdaderamente fabuloso [maravilloso, fantástico]. / <Col>Es un artista realmente buenísimo.

すばらしいね Es fantástico [magnífico], ¿verdad?

すばらしい天気だった El tiempo era maravilloso [espléndido, precioso]. / Tuvimos un tiempo ideal [espléndido, maravilloso, precioso].

あの芝居はどうだった - すばらしかったよ ¿Qué tal estuvo el teatro [la representación]? -- Magnífico. / Formidable. / <Col>Estupendo, / <Col>Buenísimo.

とてもすばらしいプレゼントだわ Es un regalo fantástico [precioso, maravilloso].

ハイキングとはすばらしい Es maravilloso ir de excursión a pie.

Q-3. (5) 本文を読んで思うのですが、文章の区切り方がいまひとつ分かりません。とくに名詞 + 形容詞 (ciudad preciosa のような) の場合、ciudad を強くしたら、preciosa がいかにもオマケのようになります。同じ強さで一息に言った方がよいのでしょうか？

A-3. どちらも強勢がありますから強く読むことになります。しかし、切らないように一息に言うべきです。文が終わるときは最後の語のアクセントはスペインでは低くなります。

ラテンアメリカでは上下に揺れます。

Q-4. (8) 何故, una fiesta となり, la fiesta とならないのですか? もう特定の祭について述べているので定冠詞でも良い気がするのですが...

A-4. 定冠詞と不定冠詞の違いは 私たち日本人にはわかりにくいものですが, (8)の Parece una fiesta muy divertida. の場合は, una fiesta を la fiesta にすると変です。なぜならば, una fiesta は parecer の主語ではなくて補語であり(主語は la Feria de Abril de Sevilla), 祭りの性質について新しい内容を提示しているからです。補語は形容詞でもいいので, La fiesta parece muy divertida でも同じ意味になります。この場合は la fiesta は主語であり, 「すでに取り上げている祭り」という古い内容なので定冠詞がつきます。

Q-5. (11) h がどういうときに黙字 (silent letter 発音されない字。英語の comb の b など) になるのか疑問だ。普通黙字なのだろうと思っていたのだが, Hemingway の He は「へ」と発音されているような気がしました。気のせいでしょうか。それとも人名だからでしょうか?

A-5. 正しい観察です。外国人の名前や外国の地名など, また外来語などで h を読むことがあります。

Q-6. (11) de esta fiesta の de は sobre とどういう違いがありますか?

A-6. de も sobre も話題を示して「...について」の意味があります。de よりも sobre のほうが, より話題を明確にします。さらに明確にするには acerca de, respecto a のような専用の前置詞句が使われます。逆に de は, 他にもとても多くの用法があるので軽い感じがします。

Q-7. (13) 会話では語の省略などが多いですが, 正式な文や論文などではどうなるのでしょうか?

A-7. 省略は文体にかかわらずあります。しかし, 確かに口語では文の形が不完全なものが多いです。

Q-8. これまでに読んだ文章に出てくる動詞のほとんどが ar 動詞で, er 動詞, ir 動詞はあまりないという印象でしたが, 実際のスペイン語もそうなのですか?

A-8. その通りです。中型の学習辞書(研究社の「新スペイン語辞典」)に載せられた動詞は 4632 語ありますが, そのうち ar 動詞は約 4000 語(85%), er 動詞は 340 語(7%), ir 動詞は 380 語(8%)です。しかし, 使われる頻度数で上位 5000 語の範囲で数えると, ar 動詞(750 語: 69%)に対して er 動詞(165 語: 15%)と ir 動詞(166 語: 15%)と割合が増えます。

さらに詳しいデータを下表に示します。小説，新聞，科学技術文など 10 分野のサンプルをそれぞれ 10 万語，計 100 万語で調べました。

	辞書 38000 語	%	高頻度 5024 語	%
ar	4009	84.7	752	69.4
er	340	7.2	165	15.2
ir	383	8.1	166	15.3
計	4732	100.0	1083	100.0

このように，確かに実際のスペイン語で ar 動詞の数が多いのですが，er 動詞と ir 動詞にも重要な高頻度語がたくさんあるので，やはり er 動詞と ir 動詞の活用形もしっかり覚えなければなりません。

Q-9. muy と mucho って何か違うのですか？

A-9. mucho には形容詞と副詞があります。形容詞として使うときは、Pedro tiene muchos amigos. Había mucha gente (たくさんの人がいた) .のように名詞を修飾します。副詞の場合は、Estudié mucho ayer (昨日はたくさん勉強した). Bebí mucho anoche(昨晩はずいぶん飲んだ).Me gustan mucho los gatos (私はネコが大好きだ). muy は副詞としてだけ使います。しかしふつうは単独で動詞を修飾することがなく、形容詞・副詞・前置詞句などの前でのみ使います。Estoy muy cansada(私はとても疲れている). Vivo muy cerca de la universidad. この使い分けは最初は紛らわしく感じるかもしれませんが、それほど難しいことではないと思います。(muy は英語の very です。形容詞や副詞などに掛かって意味を強める副詞です。 mucho も副詞に使いますが、これは動詞を強めることができます。例：Me gusta mucho este libro. 英語の much も Thank you very much. のように副詞に使いますね。 mucho には別に形容詞としての使い方があるのは言うまでもないですね。これは英語の many と much を兼ねます。例:muchos libros. muchas flores. mucho tráfico. mucha agua.

## 文法

### 1 . 点過去：規則変化

Q-1. ar 動詞は 1 人称複数が現在と点過去で一緒ですが，ちゃんと判断がつくものなのでしょうか？

A-1. 多くの場合，状況，文脈，常識で判断がつきます。それでも誤解が生じる場合もあり

ます。ir 動詞も 1 人称複数が現在と点過去で一緒です。

Q-2. 線過去と点過去が区別される境界線がわからない。

A-2. 点過去は「過去に終結してしまったこと」を表します。それが長い期間でもその全体が終わってしまっていることならば、点過去で表します。一方、線過去は、終わってしまっているということをひとまず意識の外において、過去にそういうことがあった、行われていた、ということを用い方です。線過去は「...していた」と訳されることが多いので、過去進行形のように見えますが、進行そのものは意識していません。

Q-3. 線過去と点過去という風に、なぜ 2 つの意味的に違う過去時制が分かれて作られていったのですか？

A-3. 動詞の体系全体を見渡してみると、点過去が他の時制とずいぶん違うように見えます。点過去は形だけでなく、使われ方もすでに「過去に終結してしまったこと」として別扱いするために用いられます。このように点過去は他の時制からは独立して意味的にも「切れた」関係になっています。この時制はラテン語にもありました。ラテン語にあった時制の中にはスペイン語の時代になると整理されて消えてしまったものもあります。しかし、点過去は、このように明確に線過去と区別する必要があったために、スペイン語でも保持されました。

Q-4. 単数の 1 人称と 3 人称の語尾が、現在形と点過去形で逆なのは何故ですか？（例えば現在形の 1 人称は o で終わるが、点過去形で o で終わるのは 3 人称というように）。

A-4. ほんとうに、点過去の単数の 1 人称と 3 人称の語尾が現在形と点過去形で逆になっているみたいで、紛らわしいですね。ところが、よく見ると現在では活用語尾に強勢がないのに、点過去ではそこに強勢がありますから、これがマークになります。言語史をたどると、現在形と点過去形で語尾を逆にした、ということではなくて、点過去の語尾が規則的な音韻変化を受けたことによるものだということがわかります。1 人称単数は ar 動詞ならばラテン語で AVI(発音はアーウィー)でしたが、中の V(ウ)が脱落してそれが AI となり、最後に é となりました。一方 3 人称単数はラテン語で AVIT(発音はアーウィット)でしたが、次に AUT(アウト)、そして最後に áu から ó になりました。それでは、なぜ、3 人称でも中の V(ウ)が脱落しなかったのでしょうか。私は 1 人称単数との混同を避けたのだと思います。

## 2 . 指示詞

Q-5. ese の存在に驚いたが、これは 3 つ以上のものがあるときに相対的に位置を把握するために使うものなのでしょうか。それとも 1 つしかそのものがなくても遠からず近からず

の位置にある場合には *ese* を使ったりするのでしょうか？

A-5. 1つしかなくても中間の距離にあれば *ese* になります。しばしば「話し相手」に近いものを指しますが、「話し相手」「話者」「対象物」のような空間配置でも話者にとっては *ese* になります。

Q-6. 指示詞の形について。 *este, ese, aquel* という男性単数の形は何だか変です。男性複数が、それぞれ *estos, esos, aquellos* となっているのだから、単数も *esto, eso, aquello* であったほうが自然だと思います。女性形も *esta, esa, aquella, estas, esas, aquellas* なのですから。

A-6. 確かにその通りです。指示詞のパラダイムは、一般の名詞や形容詞と違って男性・単数形だけが特別な形をしています。この問いにはインドヨーロッパ語(IE) ラテン語(L) スペイン語(Sp) という言語史を辿らなければなりません。

Sp. *este* 「この」の語源は L. *iste* 「その」です。これには IE の指示詞の印である \*t(e) がついています。L. *iste* は母音のない *ist* という形も併用されていましたが、学校で習う古典ラテン語は *iste* (男性), *ista* (女性), *istud* (中性) 「その」でした。このときになぜ他の名詞のように、*isto, ista...* とならなかったのかは、おそらく母音のない形が主格形で使われていたからだと思います。 *ist* に対して後で母音がついたのです。この *e* について、ラテン語歴史文法の本 (A. Ernout, 1974, p.93) は、「その起源がはっきりしない、たぶん *iste, ille* は変化語尾のない形で *e* とゼロが交替したのだろう」と述べています。

さて、スペイン語の時代になると、L. (h)*ic* 「この」はとても短い語だったので他の語と紛らわしくて嫌われ、次第に L. *iste* > Sp. *este* が「この」の意味で使われるようになりました。この時も、やはり男性は *este* であって、*esto* ではありません。Menéndez Pidal は単に、L. 主格形が Sp. でも使われた、と述べていますが、Alvar y Pottier は、やはり対格 *esto* が使われていたが、これの語尾し脱落し、*est'* > *este* となったと説明しています(指示詞の主格形 + 名詞の対格形という連続が考えられないからです)。

なお、Sp. の名詞は原則として L. の対格形に由来します。 Alvar y Pottier は、ここで復元した母音 *e* は中性形 (*esto*) と区別するためだった、と述べていますが、私は母音 *e* が中立的な音であったことも原因として挙げられると思います。なお、このような現象は冠詞でも起こりました(男性単数だけが *el* という形に変です)。

Q-7. 指示形容詞と指示代名詞はどう違うのですか？ 具体的にどう使い分ければ良いのか分かりません。何か例文を御教示願えないでしょうか？

A-7. 指示形容詞は *Este libro es mío.* (この本は私のものです) のように名詞の前に置かれ、名詞と一緒に名詞句を作ります。指示代名詞は *Éste es mi libro.* (これは私の本です) のようにそれだけで名詞句を作ります。

Q-8. 中性の *esto, eso, aquello* の複数形はありますか？

A-8-1. ありません。中性は単数形だけです。複数形が必要になると、男性の複数形を使います。¿*Qué son estos?* 「これらは何ですか？」

A-8-2. これらは「このこと」、「そのこと」、「あのこと」と、前の発言や文章の「内容全体」を漠然と受けるときに主に用いられます。具体的な名詞を受けるわけではないので、男性形も女性形も使うことができず、かくして中性形の登場となるわけです。そして、これだけで「内容全体」を指していますから、複数形は考えられません。たとえば、*Ayer trabajé diez horas y eso fue muy duro para mí.* (昨日私は10時間仕事をしたが、それは私にはとてもきつかった) のような例文が挙げられます。結論的に言えば、指示代名詞の中性形に複数形はありません。教科書には出てきませんが、主語人称代名詞3人称中性形 *ello* (そのこと) についても同様です。

Q-9. 目の前にその物体の名称がわからず、当然男性形を用いるか女性系を用いるかわからないものが複数あるとき、「これはなんですか」「*What are these?*」に相当する質問をスペイン語ではどう言うのですか？

A-9. これは ¿*Qué son éstos?* と男性複数形を使えばよいと思います。男性形と女性形を比べると、女性形の方が「特別なもの」です。たとえば、*nosotras* は全員が女性るときにしか用いられず、男が一人でも混ざるととたんに *nosotros* になってしまいます。また、*hombre* という語には「男」以外に「人間」という意味もありますが、*mujer* には「人間一般」という意味はありません。こうしたことからすると、男性形か女性形か、どちらを使うべきかわからない場合には、男性形を選べばそこに女性形をも含み込ませたことになるでしょう。ただ、現実問題としては、「物」という意味の名詞を補って、¿*Qué son estos objetos?* (これらの物体は何ですか) と言えば、質問がもっと明確になります。

### 3. 否定語

Q-10. *nunca* と *jamás* の意味の違いは？

A-10. どちらも「決して...ない」という意味で、ほとんど同義ですが、*jamás* のほうが意味が強いようです。*nunca* はラテン語の *ne* (否定) + *unquam* 「かつて一度」に由来して「一度も...ない」という意味です。*jamás* はラテン語の *iam* 「もう」(cf. スペイン語の *ya*) + *magis* 「さらに」(cf. スペイン語の *más*) に由来します。参考までに、2 つをつなげて *nunca jamás* と言うと、とても否定の意味が強くなります。

Q-11. 質問の答えとかで *No, no...* というふうに否定語を2つ重ねて使っていますが、それなら二重否定の文はどうやって作るのでしょうか。

A-11. 二重否定とは2つの否定語が同一の語を否定することです。結果的に肯定になります。



す。たとえば, I can never do anything without making some mistakes.は「私は何か間違いをしないでは何もできない」つまり「私は何をしても必ず間違いをする」という意味になります。スペイン語では No puedo hacer nada sin cometer algunos errores. となります。英語の anything はふつうスペイン語の algo に対応しますが, 文が no で否定されると, 動詞の後の algo は nada になります。

**Q-12.** 否定語を一通り習いましたが, 本文に出てきたらその都度チェックして覚えればよいですか? それとも今すぐ覚えるべきですか?

**A-12.** 一気に覚えるよりも, 文の中で覚えましょう。

## 練習

**Q-1.** 練習 2 (4)の答えは, tomaba, sonó となっておりますが, tomé, sonaba ではないのですか?

**A-1.** いいえ。「私が風呂に入っているとき」(線過去), 「電話が鳴った」(点過去)となります。出来事が点過去, その背景になっていることが線過去で示されます。

**Q-2.** 練習 4 (4) (p.38)で答えがどちらも eso になっていますが, 二番目の方は ese の方がいい気がします。それとも他に eso にしなくてはいけない理由があるんですか?

**A-2.** 「それは何ですか」という問いでは, 指しているものが何かわからないので中性形を使って¿Qué es eso?と聞きます。答えるほうは, 「あなたが中性形で尋ねている eso は un abridor です」というニュアンスで, Eso es un abridor.と答えています。Ése es un abridor.と答えても構いませんが, 相手が eso に込めている意味合い(その名前が男性形か女性形かもわからない。いったい何だろう)を考慮せずに, 答えていることになります。

**Q-3.** 練習 5 (4) negociación は動詞 negociar からできた名詞だと思いますが, 今までにもいろんな単語であったと思いますが, ある動詞の名詞化はどうやって行うのですか? 何かルールはありますか?

**A-3.** 多くは, たとえば-ción, -miento などの接尾辞によって動詞から名詞ができます。他に llamar>llamada の-ada のように頻度が少ないものもあります。きまった規則はないので, 出てきた名詞ごとに動詞と関連付けるとよいでしょう。

## 西訳

Q-1. 西訳 2 ) について質問です。「返事を書かなかった」という部分を HP の解答では no la contesté としていますが、これは、「手紙」に対して返事をするようなニュアンスに感じられます。日本語なら「彼」に対して返事を書くのが普通だと思うのですが、ここで no le contesté とするのはおかしいのでしょうか？

A-1. no le contesté でも問題ないです。